

“比字句”における“还”と“更” ——「差」と「たとえ」の表現——

前田 真砂美

1. はじめに

1.1. “还”と“更”

“比”を用いる明示的比較文（以下，“比字句”と記す）における副詞“还”と“更”は、時に置換可能であるが、いくつかの表現においては置換できないとされる。副詞“还”と“更”については、前田2007および前田2010においてそれぞれ考察したが、各論文では副詞“还”と“更”それぞれの特性を明らかにすることを主旨とし、両者の比較対照には積極的な議論を行っていない。しかし“还”と“更”について詳細な考察を行う際、“比字句”において両者が置換可能であるか否かに言及することは、ある程度不可避であるように思われる。そこで、本稿は“更”と“还”が置換不可能な「差」と「たとえ」に関する表現を取り上げて考察し、置換不可能である理由を明確にすることで、副詞“还”と“更”それぞれの意味特徴の定義をより確かなものとした。

1.2. “更”の〈認識の変更〉機能

副詞“更”については、前田2010で“比”を用いる明示的比較文における“更”について考察し、〈認識の変更〉というものをその機能として提起した。副詞“更”には〈認識の変更〉機能があり、“更”が使用されると変更すべき認識が探索され、かつその認識が覆される、という主旨である。本稿での議論の便宜のため、以下に簡単にまとめた。

一般に副詞“更”は“递进”（累進）を表し、その意味は「程度が深まることを表す」と定義される。たとえば“比”を用いる明示的比較文（以

下，“比字句”とし，“X比YW”で表す。X＝比較対象，Y＝比較参照，W＝比較性質）に“更”を用いた文（“X比Y更W”）は「YもWの程度が高いが，Xはそれ以上に程度が高い」と解釈されるのが普通である。“小王比小李更高。”は普通，「李君も背が高いが王君はそれよりも高い」と理解される。しかし実際にはYのもつWの程度が高いとは思えない実例が多数存在し，そのような例では「Yは程度が高くない」という判断に転じる要因は文脈によるところが大きい。文脈のない(1)はY（他＝总编辑）も程度が高いがX（报社食堂的炊事员）のほうが上であると解釈されるが，“他＝总编辑”に対して否定的な文脈のある(2)では下線部のYの程度は高くないと理解される¹⁾。つまり，「YはWの程度が高い」という解釈が優先的に選択されるが，「YはWの程度が高くない」という状況でも“更”は使用され得るということである。

- (1) 报社食堂的炊事员比他更有资格。（社内食堂のコックは彼より資格がある。）
- (2) 总编辑要把王胖子的名字抹去，因为他是“造反派”。同时，总编辑要添上自己的名字，叫“顾问”。我认为这是错误的。（中略）而且，所谓“顾问”，也纯粹是沽名钓誉。事实上，他既不“顾”，也不“问”，不过替我们打了几个电话，找了几个“关系”去进一步收集史料。要是这样也要署名，报社食堂的炊事员比他更有资格。（編集長が、「造反派」だったからといってデブの王の名を消してしまおうとした。同時に編集長は自分の名を「顧問」として添えるようにと言った。俺はそれは間違っていると思う。（中略）それに「顧問」というのも全くの売名行為であって，実際には編集長は「顧」みもしなければ「問」いもせず，ただ何本か電話をかけて，史料収集を進めるために「コネ」をいくつかあたってくれただけだ。その程度で名前を載せるというなら，社内食堂のコック

1) 本稿では日本語訳によるミスリーディングを避けるため，特に必要のない限り，例文括弧内の訳文において“更”に当たる部分の日本語訳を付さない。

クのほうが彼より資格がある。)『人啊，人！』p.95

(2) のような例において，“更”は「YはWである」という認識を“X比YW”，すなわち「XのほうがWである」に変更する役割を担っている。「編集長」というものは一般的な通念において，出版関係の事柄に関してかなり高いレベルで資格をもつものとして認識されているはずである。“更”の〈認識の変更〉機能がそのような認識を活性化し，その上で，少なくとも普通は編集長より資格がないはずのコックのほうが資格がある，と述べることで，「YはWである」から「XのほうがWである」への変更が達成される。

また，(1) のような文脈のない単純な文では「YはWである」(「彼も資格があるが，社内食堂のコックのほうが彼より資格がある」) という解釈が第一義的に選択されるが，これにも〈認識の変更〉機能が関与している。“更”を用いると変更すべき認識が探索され活性化されるが，文脈的にも一般通念からも，Y(“他”)の程度性には何の情報も与えられていない。このような場合に“更”を用いると，〈認識の変更〉機能によって「YはWである」という解釈が変更すべき認識として充当されるのである。これが，現代中国語の“更”に「程度が深まることを表す」という解釈が優先的となる理由であり，もともとは語用論的解釈でしかなかった「YはWである」という解釈が，語用論的強化を経て，“更”の含意としてある程度定着した結果であると考えられる。

ちなみに，“更”を用いない(3)では，“他”に関する変更すべき認識というものが活性化されず，上記のような解釈は生じ得ない。文字通りXがYより上であると述べるのみである。また，“还”を用いる(4)は，たとえこれを(2)の文脈で用いたとしても，「彼も資格があるが社内食堂のコックのほうが上」という解釈になる。

(3) 报社食堂的炊事员比他有资格。(社内食堂のコックのほうが彼より資格がある。)

(4) 报社食堂的炊事员比他还有资格。(社内食堂のほうが彼よりなお

資格がある。)

2. 比較文と「差」

陆剑明 1980:208, 黄祥年 1984:29 等の指摘によれば, “还”を用いる“比字句”には様々な数量構造が共起し得るのに対し, “更”を用いる“比字句”は, 具体的な数値を表す数量構造と共起せず, 共起可能なのは“(一)些”“(一)点(儿)”のみとなる。ニュアンスの差はあるものの(5)(6)の“还”と“更”はそれぞれ置換可能だが, (7)の“还”は“更”に置き換えられない。

- (5) 小王比他还高一些。(王くんは彼より少し背が高い。)
- (6) 小王比他更高一些。(王くんは彼より少し背が高い。)
- (7) 小王比他还高十公分。(王くんは彼より 10cm 背が高い。)
- (8) *小王比他更高十公分。(王くんは彼より 10cm 背が高い。)

“X 比 Y 还 W”は, 比較参照 Y にあえて W の程度が高いものを持ってくることで「X は (Y よりは) W ではないだろう」という事態の傾きを作り出し, そこで「X は Y より上だ」と述べて X のもつ W の程度の高さを効果的に表明しようとするものであった(前田 2007)。すなわち, X の程度の高さを述べることに主眼が置かれている。“X 比 Y 还 W”の表現意図が「X がどれだけレベルが高いか」の表明にあるならば, X - Y 間の具体的な差を示し, 「もともと十分に程度の高い Y にプラスしてどれだけ上か」を述べることは, その表現手段のひとつとして十分に考え得るのである。それに対し, “X 比 Y 更 W”に X - Y 間の具体的な差を述べる事が許容されないということは, “X 比 Y 更 W”には“X 比 Y 还 W”とは異なる表現意図があり, それが X - Y 間の差の明示と衝突する, ということが原因として考えられる。

ところで, “更”のもつ〈認識の変更〉機能とは, 「Y は W である」という既存の認識を覆して「X のほうが W である」と述べるものであった。本稿は, まさにこの部分が具体的な数値で差を示すことを許容しないのだと

考える。一般的に、何かを変更する際、最も注目されるのは変更後の有様、つまり、変更の結果どのような状況・状態になったか、である。そして、具体的な数量というものは文の焦点となりやすい。“更”を用いる“比字句”では〈認識の変更〉に焦点が当たっているため、他に焦点となり得る具体的な数量構造との共起ができないのだと考えられる²⁾。

一方で、“更”と具体的な数値とが馴染まない点について、“更”そのものが「差」を表すからだ、という考え方がある。たとえば邵敬敏・刘炎 2002:2 は“比字句的谓语项，一般也就是比较结果，比较结果由比较属性与比较差值构成。”（“比字句”の述語項は一般的には『比較結果』でもあり、『比較結果』は『比較属性』と『比較差値』からなる）と述べ、下記の例における“一头”と“更”がそれぞれ「比較差値」であると分析している。（例文は邵・刘 2002:2 から引用。日本語訳、下線は本稿筆者による。）

(9) 他比妹妹高一头。(彼は妹より頭ひとつ分背が高い。)

(10) 他比姐姐更高。(彼はお姉さんより背が高い。)

これに従うと、先に見た(6)は“更”と“一些”という二つの「比較差値」を有するということになる。仮に一つの文に二つの「比較差値」が許容されるとしても、「比較属性」（本稿でいうところの比較性質 W）に後続する成分は、数量構造に限らずその程度の幅が非常に広く、“(一)些”“(一)点(儿)”のような量が少ないことを表すものだけでなく、下記のように明らかに差が大きいことを表すものも生起することができる。

(11) 但假了这几句诗来描写江南的雪景，岂不直截了当，比我这一枝愚劣的笔所写的散文更美丽得多？（しかしこの数句の詩を借りて江南の雪景色を描写するとすっきりと的を射ていて、私の

2) この点に関して、インフォーマントに“更”と具体的な数量構造とが共起する例（前述の(8)および後述の(20)(21))を提示したところ、「数量構造は余計である」、「更」だけで文が完結している」との興味深い意見を得られた。

この愚劣な筆で書く散文よりもずっと美しいのではないだろうか。) CCL (郁达夫「江南的冬景」)

- (12) 这无声的言语, 比有声的更动人得多。(この無声の言語が、有声のそれよりずっと人の心を打つのである。) CCL (古龙《多情剑客无情剑》)

後続成分の程度性にこれだけの幅がある以上、それと共起する“更”がそもそもどのような「差」を表しているのか不明瞭である。このことから、“更”が「差」を表すという考えには疑問が残る。

やはり問題は、抽象的な数量を表すものとなら、その数量の多寡に関わらず共起可能というところにあると思われる。CCL コーパスで用例を調査したところ、“(一)些”“(一)点(儿)”以外で“X比Y更W”に共起する数量構造に“倍”があった。しかし、下記の例に見られるとおおり、その実態は具体的な倍数を示すものではない。(13)(14)に至っては比較性質Wが“难”“坏”であることも手伝って、“百倍”“七倍”が具体的な数値であるとはなおさら考えにくい³⁾。

- (13) 我不认为自己当时能满不在乎地爬下去, 这比往上爬更难百倍。
(私は、自分があの時少しも気にせず下っていけることが、登っていくことより百倍分も難しいことだとは思わなかった。) CCL

- (14) 这显然是一个比喻, 讲的是那人稍作努力捐弃情欲后, 又被情欲征服了, 并且变得比以前更坏了七倍。(これは明らかにひとつの比喩で、その人が少しばかり努力して色欲を捨て去った後、また色欲に征服され、しかも以前の7倍分も悪くなることを言っているのである。) CCL

3) “七倍”が抽象的な量を表していると思われる例は他にも見られる。

- (a) 他吩咐手下把窑烧热, 比平常更热7倍, …… (彼は手下に窯を普通の7倍分熱く燃やすよう言いつけ, ……) CCL

- (15) 银钩犹在风中摇晃，被这只银钩钓上的人，也许远比渔翁钓上的鱼更多千百倍。(銀の釣針は風のなかでなおも揺れ動いている。もしかしたらこの銀の釣針に釣り上げられた人間は、年離れた漁夫が釣り上げた魚の数の何千何百倍も多いかもしれない。) CCL (古龙《银钩赌坊》)

その他には下記のような例が見られたが、やはりすべて抽象的な量を表すものである。数量をぼかした表現であるため焦点とならず，“更”の〈認識の変更〉と衝突せずに共起できるのだと考えられる。

- (16) ……有时也能让我们看出一些比读它的上市公告书所能了解的更深一层的信息。(時にはその会社の上場公告書を読んで理解できることよりも一層深い情報を見出させてくれることもある。) CCL
- (17) 这次的措施比一九七五年更进了一步。(今回の措置は1975年のときよりも一歩進んでいる。) CCL
- (18) D型的本领比前三种更高一筹。(D型の能力は前述の三種類より一段と高い。) CCL

なお，“X比Y更W”という構造全体とX-Y間の差の明示との関係に問題がある，という可能性は排除してよい。下記(20)(21)のように“更”を単独で用いる場合も，“这座楼”と“东京天空树”の間の差(“334米”，“一倍”)を後続させることはできない⁴⁾。(19)は問題なく成立する

4) “更”が介詞“比”に先行する例では，具体的数量との共起が可能である。

(b) 世界上，有三个国家的人口跟贵州差不多，都是3000万左右。那是歌伦比亚、南非、加拿大。但他们的人均产值分别比贵州约高5倍、10倍、50余倍！(中略)再说贵州八山一水的困难。这跟瑞士差不多。但瑞士的人均产值更比贵州约高58倍！(世界には人口が貴州とほぼ同じ，3000万人前後の国が3つある。コロンビア，南アフリカ，カナダである。しかしこれらの国々の一人当たり

が、“更”と数量構造が共起する(20)(21)は非文である。

- (19) 这座楼高达300米, 东京天空树更高。(このビルは高さ300メートルもあるが, 東京スカイツリーはさらに高い。)
- (20) *这座楼高达300米, 东京天空树更高334米, 全高634米。(「このビルは高さ300メートルもあるが, 東京スカイツリーはさらに334メートル高く, 全長634メートルである。」の意味で)
- (21) *这座楼高达317米, 东京天空树更高一倍, 全高634米⁵⁾。(「このビルは317メートルあるが, 東京スカイツリーはその2倍で,

GDPはそれぞれ貴州の約6倍, 11倍, 50数倍である。(中略) そのうえ貴州は山が多く水が少ないという困難な土地で, これはスイスと大差ない。しかしスイスの一人当たりGDPは貴州の約59倍である。) CCL (CCLの検索では「再说贵州~~约高58倍!」の部分しか得られなかったが, ウェブ上で全文を閲覧することができた。(http://2ibook.com/chap/p52c5183.aspx 2011/06/28 現在))

- (c) 第一次试举他成功举起187.5公斤, 比李培永多2.5公斤, 总成绩更比他多10公斤。(一度目のチャレンジで, 彼は李培永より2.5kg重い187.5kgを持ち上げることに成功し, 総合成績では彼より10kgも重かった。) CCL
- (b) は「人口がほぼ同じ国」のGDPが数倍~数十倍上であるが, 「土地条件がほぼ同じ国」のGDPはそれを上回る倍数であるということ, (c) は一度のチャレンジで2.5kgの差をつけたのみならず, 総合成績ではさらに大きな差でもって勝ったということであり, とともに前者がすでに十分注目すべき事柄であることを受けて, 後者のほうがなおさらそうであると述べている。上記のような文は邢福义1995の定義するところの“更”字复句(“更”複文)であり, その構造は“X更[比YW]”と捉え, 副詞が指向する範囲が“X比Y更W”とは異なっていると見るのが妥当であろう。
- 5) CCLでは単独の“更”と共起する“~倍”が具体的な数値を表していると思われる例が一例見つかったが, しかし, 本稿で行ったインフォーマントへの調査では, 例(21)は適正文として許容されなかった。
- (d) 成年妇女有过同性恋体验的约占10~12%, 男性同性恋的发生率更高一倍, 即约占20~24%! (成人女性で同性愛経験のある人は10~12%, 男性の同性愛発生率はその2倍で, 約20~24%を占める。)

全長 634 メートルである。」の意味で)

3. 比較文と「たとえ」

3.1. “比拟”

“还”を用いる“比字句”(“X 比 Y 还 W”)には、比較参照 Y を一種の判断基準とし、X のレベルの高さを引き立たせて述べる用法がある。いわゆる“比拟”(「たとえ」)である。(例文は陆剑明 1980:195 から引用。日本語訳は本稿筆者による。)

(22) 那条蛇比碗口还粗。(その蛇はお碗の口より太かった。)

(23) 我们山区的蚊子比苍蝇还大。(私たちの山地の蚊はハエより大きい。)

このような用法は、W のレベルの高さが顕著であるものを Y に置き、X を Y になぞらえ、たとえる表現である。多くの場合が誇張的であり、上記の例でも、実際に蛇の太さがお碗の口の太さを超えているかどうか、山地の蚊が本当にハエより大きいかどうかは問題ではなく、あくまで X のレベルの高さを表明するための「もののたとえ」であると言える。

なお、于立昌・夏群 2008 が、陆俭明 1982 [2001:33] の“‘跟 X 似的’只表示比拟”(“跟 X 似的”は“比拟”しか表さない)という定義をもとに、“跟 X 似的”で言い換え可能であることを“比拟”の条件としており、“比拟”の定義として本稿はこれを採用することとする。なお、陆俭明 1982 の言う“跟 X 似的”の“X”には本稿で言うところの比較参照 Y が入るため、以下の議論では便宜上、“跟 Y 似的”と言い換えることとする。

3.2. “更”の“比拟”

“比字句”を用いた“比拟”には“还”しか使用できないという点は、陆剑明 1980、郭志良 1993 等の先行研究によって指摘されている。陆剑明 1980:195 は、前節 (22) (23) の“还”を“更”に換えると「文が明らかに不自然になる」(“句子就会显得很 unnatural”)と述べ、同様に、郭志

良 1993:67-68 は下記の例を挙げ、“比拟”用法に“更”が適さないことを主張している。((24)～(27)は郭志良 1993:67-68で“还”の例と“更”の例それぞれに分けて挙げられている例を、本稿筆者が〔还/更〕の形式にしてひとつの例文にまとめたもの。日本語訳は本稿筆者による。)

- (24) 北大荒的小咬, 比小米粒〔还/?更〕小, 叮得人火烧火燎的; ……(北大荒のブヨは粟粒より小さく、刺されると焼け付くように痛い。) 从维熙《北国草》
- (25) 在这样的地方行军, 身上背的六十斤, 也许要比一百二十斤〔还/?更〕重。(このようなところで行軍すると、背負っている30kgの荷物も60kgより重いかもしれない。) 吴之南《高原书简》
- (26) 他们一个门洞一个门洞地蹲坑守候。冻得贼死, 比孙子〔还/*更〕孙子……(彼らは出入り口ごとにしゃがみこんで番をした。ひどく寒くてまるで人間扱いされていないようだった。) 梅洁《橄榄色的世界》
- (27) 他倒不饿也不怕了, 但是腿走得酸酸的, 一条胡同怎么比一条铁路〔还/*更〕长呢?(彼はもう飢えても恐れてもいなかったが、歩き疲れて足がだるかった。どうして胡同が線路より長いんだ?) 王蒙《杂色》

- (24)′ 北大荒的小咬, 小得跟小米粒似的。
- (25)′ 身上背的六十斤, 重得跟一百二十斤似的。
- (26)′ 冻得贼死, 冻得跟孙子似的。
- (27)′ 这条胡同, 长得跟一条铁路似的。

(24)～(27)は(24)′～(27)′のように“跟Y似的”の形式で言い換えることができる。したがって“比拟”であると言える。上記の例に“更”を用いると非文になる、あるいは許容度が下がるという言語事実の指摘は大変興味深い。しかし、郭志良 1993:68は「“更”は単一方面の“较喻”には使用されない⁶⁾」にもかかわらず下記のような実例が存在することを

指摘し、これについて「どう説明すべきかわからない」と述べている。(29)は比較参照が指示詞“这”であるため“跟Y似的”に言い換えた(29')は非文となるが、(28') (30') (31')の例は成立することから、(28) (30) (31)の三例は“比拟”であると言える。このような例になぜ“更”が使用されるのだろうか。

- (28) 车开得很快, 我的突奔而来的思绪, 比汽车轮子滚动得更快。(車はスピードを出して走っていたが、突如浮かんだ私の考えは車のタイヤより速く駆け巡った。) 从维熙《鼻子备忘录》
- (29) 我掬起一勺河水, 额吉的泪比这更多! (私は柄杓一杯分河の水をしごいた。母親の涙はこれより多い!) 许琪《河传》
- (30) 千几百年铸造下来的许多规条, 比砖头更要硬, …… (千数百年かけて作り上げられたたくさんのしきたりはレンガより硬い) 秦似《城与年》
- (31) 人情比春风更温暖。(人の情は春の風より暖かい) 钱乃荣主编《现代汉语》

- (28)' 我的突奔而来的思绪, 快得跟汽车轮子(滚动)似的。
- (29)' *额吉的泪多得跟这似的。
- (30)' 千几百年铸造下来的许多规条, 硬得跟砖头似的。
- (31)' 人情温暖得跟春风似的。

6) “较喻”は似通った性質上の差を述べることである。郭志良 1993:68 は、“比…更…”も“较喻”に用いることができるが、多くが多方面の“较喻”であるとしている。「多方面」とは、下記のように複数の比較性質 W が挙げられることを意味している。(例文は郭志良 1993:68 より引用)

(e) (人们心头的) 这个春天, ……比大自然里的春天更美、更可爱、更真实、更持久。(人々の心の中のこの春は、……大自然における春より美しく、可愛らしく、真実味があり、永続的である。) 季羨林《春满燕园》

(24) ~ (27), (28) ~ (31) の二つのグループの例を検討してみると気づくことがある。X と Y の概念範疇が異なるという点である。“还”しか使えない (24) ~ (27) の例において、“小咬”と“小米粒”, “六十斤”と“一百二十斤”, “他们”と“孙子”, “一条胡同”と“一条铁路”がそれぞれ、実際に比較を行いその程度の上下を客観的に判断することができるもの同士であるのに対し, “更”を用いる (28) ~ (31) は, W という性質において X と Y を比較する形式をとってはいるが, 「考えが頭をめぐる速さ」と「車の回転の速さ」, 「涙の多さ (ここでは涙そのものの量というより, “额吉”の悲しみの深さを代表している)」と「河の水の多さ」, 「規則の固さ」と「レンガの硬さ」, 「人の情の温かさ」と「春の風の温かさ」はそれぞれ, 具体性の度合いが同等でない。つまり, X の抽象性が Y より高いため, 厳密な意味において両者は比較ができるものではない。抽象的な事象をより具体的な事物との共通性によって捉えようとすることはメタファーの最も基本的な手段であり, “更”を用いる (28) ~ (31) は, Y を起点領域 (source domain), X を目標領域 (target domain) に設定した, よりメタフォリカルな表現であるといえる。

インフォーマントの語感によると, (28) ~ (31) の“更”は“还”に換えられないわけではないが, “还”に置き換えると, X が Y より程度が高いことを新情報として相手に知らせるといったニュアンスが強くなるそうである。特に (29) に関しては, “还”に置き換えると「河の水と涙の量を実際に比較しているという, 文字通りの意味にしか解釈できなくなる」との指摘を得た。(29) を“额吉”の悲しみの深さを表現するための比喩と解釈するには“更”でなければならないという点は, 大変に示唆的である。“还”の「たとえ」が, W のレベルの高さが顕著であるものを Y に置くことで X を引き立たせる表現であることはすでに述べたが, それに対し, “更”の「たとえ」は, 異なる概念領域にある二者の共通性を捉えてなぞらえる表現であると言える。

さらに, このような“更”の例を前後の文脈も含めて検証してみてもわかったことは, 参照点である Y にあたるものが既出である, あるいは文脈的・状況的にそれが想起しやすい環境である傾向が強いということであ

る。(31) について文脈を確認できなかったため、また恐らくは“春风”は初出と思われるため、あくまで傾向として提起するのみにとどめるが、(28) では“车开得很快”によって後のYにあたる“汽车轮子”が喚起されていると言えるし、(29) で“这”が指示するもの(“一勺河水”)が既出であることは言うまでもない。(30) は前後の文脈を示すと(32) のようになり、やはり“砖头”は既出であった。

- (32) 后来有人把一块一块的砖头拆下来，原来立着墙的地方成了平地，成了马路。但那座城依然存在，千几百年铸造下来的许多规条，比砖头更要硬，人们只要从那地方走过，甚至不必从那地方走过，就知道那儿是一座厚厚的漆黑的城！（後にある人がレンガをひとつひとつ取り除き、もともと壁のあった場所は平地になり、大通りになった。しかしその城壁は変わらず存在していた。千数百年かけて作り上げられたたくさんのしきたりはレンガより硬く、人々はその場所を通りかかるたびに、あるいは通りかからなくても、そこが分厚くて真っ黒な城壁であったとわかるのだ。）「城与年」p.278-279

“更”の〈認識の変更〉機能を鑑みるに、メタファー的な“比字句”においてYが想起しやすい状況が整っていることと、“更”をそのような表現に用いることとは無関係ではない。たとえば下記の例では“仙女星座里的金发仙女”と“知县、知州”がそれぞれYに用いられているが、(33) の「たとえ」は唐突過ぎる感が否めず、(34) は比喩ではなく実際に“知县、知州”よりきれいに洗ったという意味にとられる可能性が高い。

- (33) 金黄色的沙滩仿佛比仙女星座里的金发仙女更情意绵绵。(黄金色的砂浜はまるでアンドロメダ星の金髪の女神よりも愛情に満ちている。)
- (34) 我可也不能不感谢她把我的全身都洗得干干净净，可能比知县、知州更干净一些。(彼女が私の全身をきれいに洗って、恐らく知

県や知州よりもきれいにしてくれたことを感謝せずにはいられない。))

しかし、上記二例の前の文脈を提示すると以下のとおりであり、“仙女星座里的金发仙女”は唐突にはなく、“银河湾”との関連により比較参照として挙げられていることがわかる。また、“知县、知州”も既出である。

- (35) 在那个人称银河湾的小海湾里，金黄色的沙滩仿佛比仙女星座里的金发仙女更情意绵绵，……（その人が銀河湾と呼ぶ小さな湾では，黄金色の砂浜がまるでアンドロメダ星の金髪の女神よりも愛情に満ち……）CCL
- (36) “先洗头，作王侯；后洗腰，一辈倒比一辈高；洗洗蛋，作知县；洗洗沟，作知州！”（中略）虽然我后来既没作知县，也没作知州，我可也不能不感谢她把我的全身都洗得干干净净，可能比知县、知州更干净一些。（「先に頭を洗うと王侯になり，後に腰を洗うと一代ごとに高くなる。頬を洗うと知県になり，おしりを洗うと知州になる」）（中略）私は後に知県にも知州にもならなかったが，それでも彼女が私の全身をきれいに洗って，恐らく知県事や知州よりもきれいにしてくれたことを感謝せずにはいられない。）CCL（老舍《正红旗下》）

〈認識の変更〉機能にはYに関する何らかの認識を探索し活性化する作用があり，特に，文脈的に，あるいは一般通念上，Yに関する情報が存在しない場合には，「YはWである」という解釈が変更すべき認識として活性化されることになる。上記のような「たとえ」の文におけるY（“仙女星座里的金发仙女”，“知县、知州”）についても，一般通念に基づいた「W（“情意绵绵”，“干净”）である」という認識は存在しないが，“更”を用いることにより文脈上に存在する関連事項が活性化されてYと関連付けられ，メタファーとしての効果を発揮すると考えられる。メタファー的な「たとえ」を成立させるためには，〈認識の変更〉機能をもつ“更”の共起

が必要なのである。

3.3. “还”の“比拟”

Yが初出か否かという点について，“还”を用いる場合はYは初出であることが圧倒的に多い。下記の例でも、Yにあたるものはすべて初出であることが確認できた。

- (37) “……这还是头一胎呢，不声不响的就生下来了，比下个蛋还容易！”（「これが初産だっていうのに、声も立てずに産んじゃって、鶏が卵を産むより簡単そうだったよ！」）「关于女人」p.376
- (38) 可真热闹啊，比白塔寺还热闹。（本当に賑やかだったよ。白塔寺の縁日よりも賑やかだった。）「活动变人形」p.76
- (39) 后妈，这可是一个严重的问题，后妈比魔鬼还可怕，倪藻早就知道了。（継母。それは重大な問題だった。継母が悪魔より恐ろしいものだというのを、倪藻はとっくに知っていた。）「活动变人形」p.76
- (40) 你比蝎子还毒比狐狸还滑！（あなたはサソリより残忍でキツネより狡猾だ）「活动变人形」p.263
- (41) 我算是明白了，干苦活儿的打算独自一个人混好，比登天还难。（私にはわかっている。きつくて稼ぎも少ない仕事をやっているような人間がひとりでなんとかやっついこうとするのは、天に登るよりも難しいことなんだ。）『骆驼祥子』p.209

Yが初出であっても問題なく「たとえ」が成立するのは、还”の「たとえ」では、YのもつWの程度が高いことが（少なくとも話し手と聞き手の間では）社会的、文化的に裏打ちされているがゆえである。このことが理解しやすいのは下記の例である。

- (42) 我儿子长得比桌子还高。（私の息子は机より背が高い。）
- (43) 他个子比书架还高呢。（彼は本棚より背が高い。）

日本語話者にとって(42)(43)の日本語訳は、身長が机や本棚より高いという文字通りの意味しか表さない。しかし、中国語話者にとっては、“桌子”や“书架”は背の高さを効果的に表明するために挙げられる典型的・代表的な事物である。“更”の“比拟”においてYの程度性に関する一般通念が存在しないのに対し、“还”の“比拟”では、Yは「Wの程度が高いこと」が織り込み済みなのである。しかもそれはXとYの具体性の異同にかかわらない。下記の例において“春风”と“消息”，“恩德”と“天／海”はそれぞれ実際に比較ができるものではないが、「春风は暖かいもの」，「天は高いもの」，「海は深いもの」という通念があれば、Yに入ることができ⁷⁾。

- (44) 忽然传来了比春风还要温暖的消息……（突然，春风より温かい知らせが届き……）CCL
- (45) 总理对我的恩德真是比天还高，比海还深。（総理の私への恩恵はまさに天より高く，海より深い。）CCL

4. おわりに

本稿では“还／更”を用いる“比字句”のうち、「差」と「たとえ」に関連する表現について、両者が入れ替えられるか否かを切り口に初歩的な考察を行なった。“还”と“更”はときに入れ替え可能であるが、それは両者を用いる“比字句”の成立条件が重なるごく一部の例においてのみであると言える。

7) 前掲(31)の例(人情比春风更温暖。)において“春风”が恐らく初出であることもこれに関連しており、中国語話者の一般通念において、“春风”は「暖かい」という性質について典型的・代表的なものであるためであると思われる。(31)は“更”を“还”に換えても「たとえ」として成立する。

〈用例出典〉

冰心「关于女人」『冰心选集』第一卷，河北教育出版社，1992

戴厚英『人啊，人！』广东人民出版社，1980

老舍『骆驼祥子』人民文学出版社，1978

秦似「城与年」『秦似杂文集』新知三联书店，1981

王蒙「活动变人形」『王蒙文存』第二卷，人民文学出版社，2003

CCL 语料库，北京大学汉语语言学研究中心 (http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/)

(出典が小説等で作者・作品名がわかるもののみカッコ内に記した)

※出典を明記していない例文はインフォーマントのチェックを受けた作例である。

〈参考文献〉

前田真砂美 2007. 「副詞“还”の認知的意味分析」, 『中国語学』254号: 241-262頁。

前田真砂美 2010. 「副詞“更”の意味——〈さらに〉の含意をめぐって」, 『中国語学』257号: 127-146頁。

郭志良 1993. 「试论“比…更/还…”结构」, 『汉语研究』, 第3期, 南开大学出版社。

黄祥年 1984. 「比较句中的“更”和“还”」, 『语言教学与研究』, 第1期。

陆俭明 1980. 「“还”和“更”」, 『语言学论丛』第6辑: 191-209页。北京: 商务印书馆。

陆俭明 1982. 「析“像……似的”」, 『语文月刊』第1期。[季羨林主编 2001. 『陆剑明选集』, 东北师范大学出版社。]

邵敬敏·刘焱 2002. 「比字句强制性语义要求的句法表现」, 『汉语学习』第5期: 1-7页。

邢福义 1995. 「“更”字复句」, 『中国语言学报』, 第5期: 82-96页。

于立昌 夏群 2008. 「比较句和比拟句试析」, 『语言教学与研究』, 第1期: 14-18页。